

第754回: The Shadow の研究

上海駐在員だった 1980 年台後半のこと。まだ超大国・中国の時代は始まっておらず、駐在員として多少時間がある・・と云うかヒマだったので、上海日本人商工クラブの機関誌「上海」の編輯に加わっていた時期がある。その時の「上海」編輯長が朝日新聞上海支局長と云うよりは「五十万年の死角」、「蒋介石の黄金」などミステリー作家として有名な伴野朗氏であった。

あるとき、同氏から「これ、ずいぶん破天荒な設定だけど面白いから読んでみたら？」として頂いたのが、(当時はまだ)謎の覆面作家だった A.J.クイネルの「イローナの四人の父親(新潮文庫)」だった。

あらすじを簡単に云えば、冷戦時代のハンガリー・ブダペストで 56 年に生を受けた少女イローナが何者かに拉致され、彼女を救うために、その父親とされる東西 4 人の諜報員(米英独ソ)が、持てる能力の全てを駆使して謎の勢力と戦う・・といった内容で、一晩で読み上げた覚えがある。

それからしばらくして伴野さんと一杯飲んだ時、彼が「クイネルの作品は傑作揃いだが、タイトルの日本語訳がダメだ」と云っていたのを思い出す。

この小説は訳者の意見や出版社の営業政策等を勘案して「イローナの四人の父親」としたようだが、原文タイトルは「The Shadow(裏切り者)」である。たしかに、この意識は感心しない。だが「裏切り者」で出版してしまうと、文庫本の中には、「裏切りの塔(チェスタトン)」、「十津川警部・裏切り(西村京太郎)」、「裏切りの条件(門田泰明)」など似たような題名が多すぎる上、「裏切り者」だと作品のネタバレになる可能性もあるので、敢えて意識したのではないかと伴野さんは云っていた。

中国語で「叛徒」、英語で「The Shadow」。叛徒は上場企業でも政界でも外交でもしばしば登場する敵役の最たる存在だ。だが、意外性を狙うミステリー作家の中には、第 2 次世界大戦の悪役はナチスドイツ、東西冷戦のヒーローは旧ソ連と相場が決まっている常識を覆して、ジャック・ヒギンズ「驚は舞い降りた」のように、敢えてドイツの軍人を正義感溢れる好漢として描き、联合国側に悪役を配するひねくれ者もおり、クイネルの作品にもそのような例が散見される。いずれにしてもミステリー小説の中では、「アイガー・サンクション」、「ナヴァロンの要塞」など裏切り者が重要な役割を果たす作品が多いようだ。

さて、21 世紀の国際政治において、複雑極まる世界情勢を傲然と見下ろす一方、舞台裏では裏切りの影に怯えているのがロシアのプーチン大統領だろう。

今も昔もロシアでは支配・裏切り・離反が反復する歴史が続いており、最近ではロシア正教会の仲立ちによる「クリスマス休戦」が反故にされた事例があったばかり・・お互いに「相手が裏切った」と云っているが。

また、ロシアの民間軍事会社ワグネル創設者プリゴジンが二枚舌を使い、ウクライナに「バフムトからの部隊撤退を条件に、ロシア軍の位置情報を提供する」と打診していたとの噂が流れ、それが事実かそれとも陽動作戦なのか、議論を呼んでいる。いかにもロシア的な現象ではある。

先週広島で先進 7 개국首脳会議(G7 サミット)が開催されたばかりだが、G7 の後に、インドや韓国などの 8 개국の招待国も参加した「グローバルサウス」関連の会合も行われた。

ここで G7 との連携が図られ、最後にウクライナ・ゼレンスキー大統領がフランス専用機で広島空港に降り立ち、ドイツの BMW に乗って原爆記念館やサミット会場に駆け付けけるなど意味深長な演出も行われたが、プーチン大統領が気にしたのは、ゼレンスキー大統領とインド・モディ首相との首脳会談だったようだ。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

欧米からの厳しい経済制裁を受けてきたロシアにとって、最大の抜け穴として利用してきたのがインドであるのは周知の事実。もし広島国際会議で、インドが対露政策の変更に踏み切るような発言でもすれば、プーチン政権にとって大きな衝撃の「インドの裏切り」となる可能性があるからだ。

企業内の裏切りは下賤な破廉恥行為だが、政治の世界にはやむを得ない裏切りも確かに存在する。

日露戦争末期、桂太郎内閣が賢明に和平の道を探っていた時、世論は新聞社の扇動もあって、極めて好戦的な存在となり果てており、日比谷焼打事件なども発生し、桂内閣はその收拾に手を焼いた。

ロシアの侵略に対しウクライナ国民は今のところ祖国防衛戦争として一致団結しているが、戦争が長引き、双方が歩み寄り、不完全な和平を模索するようになると、国論は二分され、ゼレンスキーにせよ、プーチンにせよ、国民から「裏切り者」と罵倒されるような事態が生じる可能性があるだろう。

アルジェリア独立問題で、ドゴール大統領は「政治面で祖国か世論の何れかを裏切らねばならない時がある。だが私は祖国を裏切ることはできない」として、結果的に世論を裏切り、極右勢力から狙われたことがあった。「ジャッカルの日」の元ネタだ。

プーチン大統領にとって裏切りが気になるG7サミットだったが、中国の習近平主席にとっても不愉快且つ目障りなサミットであった。広島に呼んでももらえなかった習主席は国内向けの弁解も兼ねて、G7開催直前(18日)、古都西安に中央アジア、即ち旧ソ連圏の5か国(カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・キルギス・タジキスタン)を招待し、首脳会議「中亜峰会」を開催した。

習主席はG7を睨み中央アジア各国との連携を誇示した上で、中国が巨大経済圏構想「一帯一路」構想を提唱して今年で10年になるのを機に、「ロシアの裏庭」中央アジアへの影響力を強め、投資や経済協力を一層拡大させる思惑があったのは間違いない。加えて中国はウクライナ侵略が主要議題となるG7に対抗し、ウクライナ情勢を巡る国際世論にも影響力を及ぼそうと考えたようだ。

新中国が建国された1949年時点では、ソ連のスターリンから完全に子分と云うか、手下扱いされた中国の毛沢東だったが、今や中国のGDPは約18兆米ドルと、ロシアの8倍を超える規模となっており、勝敗は明らかだ。そういえば、最近、こんなアネクドットがロシアで人口に膾炙しているそう。

- ◆ 100年前の帝政ロシアを陰で支配したのは、巨大な武器を有する怪僧ラスプーチンだった
- ◆ 今のロシアを支配するのは、巨大な核兵器を有するプーチン大統領だ
- ◆ 10年後のロシアを支配するのは、巨大な人口を擁するチン(陳)主席だ

(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

2023年(令和5年)5月23日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

外国証券等について

・外国証券等は、日本国内の取引所に上場されている銘柄や日本国内で募集または売出しがあった銘柄等の場合を除き、日本国の金融商品取引法に基づく企業内容等の開示が行われておりません。

手数料等およびリスクについて

①国内株式等の手数料等およびリスクについて

・国内株式等の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2650% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 1.2650% (税込み) に相当する額が 3,300 円 (税込み) に満たない場合は 3,300 円 (税込み)、売却約定代金が 3,300 円未満の場合は別途、当社が定めた方法により算出した金額をお支払いいただきます。国内株式等を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式等は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。

②外国株式等の手数料等およびリスクについて

・委託取引については、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 1.1000% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・国内店頭取引については、お客さまに提示する売り・買い店頭取引価格は、直近の外国金融商品市場等における取引価格等を基準に合理的かつ適正な方法で基準価格を算出し、基準価格と売り・買い店頭取引価格との差がそれぞれ原則として 2.50% となるように設定したものです。

・外国株式等は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

③債券の手数料等およびリスクについて

・非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスクおよび為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

④投資信託の手数料等およびリスクについて

・投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

・投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価額が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

⑤株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

・株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0880% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.400% (税込み) の手数料をいただきます。約定代金の 4.400% (税込み) に相当する額が 2,750 円 (税込み) に満たない場合は 2,750 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。

・株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をご覧ください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。